

令和七年度

第十九回

稲敷市
青少年の
主張大会

Inashikishi
seisyonen
no
syucyo
taikai

作文集

青少年の声に耳を傾けてみませんか？



青少年育成稲敷市民会議
会長 和田克典

いあいやつ

第十九回稲敷市青少年の主張
大会は、今年度も市内の小学生

(4名)・中学生(4名)・高校生(2名)の10名の皆様に、発表していただきます。10名の皆様には、例年にない暑さが続いた夏休みの中、何回も検討を重ね、大変素晴らしい発表内容にまとめてくださいました。心より感謝を申し上げます。

発表内容は、①世界で戦争のない平和な社会を、②私たちのまわりにあるいろいろな差別について、③家族や学校生活の出来事を通し、命の大切さについて考えたこと、④言葉の持つ力と使い方についてなどでした。

皆さん、人権問題をしっかりと把握して書かれています。一人一人の熱い訴えは、多くの方々に大きな感銘を与えてくれるものと確信しております。

日進月歩の情報化社会において、SNSの普及やAーの利用拡大により、私たちの生活が大変便利になってきているのも間違ありません。しかし、青少年を取り巻く地域や家庭などにおけるコミュニケーションが不足しがちになっているとも言われております。

青少年にとって、いろいろな人との交流や会話は、健全な成長にとって大切なことは言うまでもありません。

今回のような青少年の主張大会において、青少年の皆さんが、

自分たちの意見を多くの方の前で発表したり、またお互いに聞いたりして学び合うことは、とても重要な意味を持っています。

これからも、学び続けることの大切さを忘れず、優しさを持った人として成長されることを心から期待しております。

最後になりましたが、事務局の方々をはじめ、市民会議の関係者の方々、そして、ご協力・ご支援をいただきました教育委員会の方々に厚く御礼申し上げます。

また、発表にあたり熱心なご指導等を賜りました、保護者の皆様、学校の先生方にも心より感謝を申し上げます。

目次

■ごあいさつ

青少年育成稲敷市民会議 会長 和田 克典 1

作文発表

小学生の部

■1 差別について思うこと

沼里小学校

五年

松田 結太 4

■2 だれもが幸せだと思える世界を目指して

高田小学校

六年

飯沼 ひより 6

■3 いらない人なんていないよ

桜川小学校

六年

真下 千佳 8

■4 言葉づかいの世界

あずま西小学校

五年

坂本 陽茉莉 10

中学生の部

5 自分らしさを探し求めて

江戸崎中学校

二年

椎名桃子

12

6 言葉の力

新利根中学校

二年

宮本快

14

7 私たちと世界の平和

桜川中学校

二年

水飼未笑

16

8 違いを強みにできる社会へ

東中学校

二年

服部美伶

18

高校生の部

9 大切にすべきこと

江戸崎総合高等学校

二年

坂上瞳羽

20

10 命の偉大さ

江戸崎総合高等学校

二年

嶋野くらら

22

■ 講評

稲敷市教育委員会指導室

川村満博 24

1 差別について思うこと

沼里小学校 五年 松田^{まつだ} 結太^{ゆうた}

テレビのニュースで、「差別をなくそう」という言葉をよく耳にします。私たちは、性別、年齢、国籍、障がいの有無などの違いを持つ個人が、一人一人集まって生活しています。そしてこの違いを認めないことで、差別をしてしまったり、逆に差別を受けてしまったりすることがあります。

たくさんさんの差別がある中で、ぼくが少し気になった差別は、性的マイノリティーに対する差別です。LGBTQの人たちへの差別とも言われるこの差別は、どうして起きるのでしょうか。

ぼくはこのLGBTQの人たちというのは、様々な個性をもっている人たちだと思います。異性にこだわらず、色々な人を好きになれる人、性別にこだわらず、見かけやファッションを楽しむことができる人なのだと思います。

ぼくは『若松一中グリークラブ 気になるあの子はトップテノール』という本に出会いました。男の子である主人公は、女装をしている男の子と出会い、心をひかれます。そして、主人公のことが大好きで、主人公の応援団長を名乗る男友達も登場します。主人公の男の子は、男であ

る自分や友達は、変なのではないかと悩みますが、その人そのものの良さに気付き、それが好きなのだと最後に気付きます。ぼくも男の友達を「素敵だな、かっこいいな」と思うこともあります。友達に聞いても、同性の人が魅力的に感じられることもあるように、みなさんもきっとあるはずです。程度の差こそあれ、だれもが性別に関わらず魅力を感じます。魅力を感じることは、とても良いことだと思います。しかし、見方、感じ方で、人を差別することは、良くないことだと思います。

差別はとても悲しい結果をもたら

主	青	稲
張	少	敷
大	年	市
会	の	

Inashikishi
seisyonen
no
syucyo
taikai

作文集

することがあります。差別による苦しみから、逃れようとして自殺してしまう人もいます。また、家に引きこもったり、心が病んでしまう人もいます。

しかし、差別はこの世の中にまだ存在し、完全になくすことはとても難しいことだと思います。けれども、世界中の一人一人が、差別をしないという意識をもって生活すれば、少しずつ改善し、改善すれば、差別で苦しんでいる人たちも救われると思います。

次にぼくは、差別を減らしていくために自分たちができることについて伝えたいと思います。

まず、自分たちが差別をしないようにするための試みです。ぼくは、日頃からどんなことが差別になって

しまうのか周りの人たちと話し合う場を多く作りたいと思います。そうすれば、自分や友達が、気付かないうちに差別してしまうことが少なくなると思っただからです。

次に差別に苦しんでいる人たちに、「自分の悩みを、信頼できる人や家族、身近な人たちに相談していい」と呼びかけます。差別が全くないことが一番良いのですが、もし差別で悩む人がいたら、悩まなくてもいいように、みんなに相談しようと呼びかけていきたいと思っています。

最後に、人はそれぞれ違う個性をもっています。生まれつき肌の色が違ったり、障がいがあったりする人もいます。みんなが幸せに暮らすために、相手と一緒に過ごすことで、相手のことをよく理解し合うことが

とても大切だと思います。また、世界中の一人一人が、差別をしないということを意識して生活すれば、この差別問題は、少しずつ改善されていくと思います。何があろうと差別は絶対にはいけないと思います。一つ一つの差別が改善されていけば、この世界はきつとみんなが笑顔になります。ぼくはみんなが笑顔でいる世界を強く望みます。

2 だれもが幸せだと思える世界を目指して

高田小学校 六年 飯沼^{いぬま} ひより

わたしは、戦争のない世界にしたいです。

社会の授業で、広島と長崎に原子爆弾が落とされたことを学びました。たくさんの人が、一瞬で命をうばわれました。お父さんやお母さん、兄弟や友達、生まれて間もない赤ちゃんまでもが目の前でいなくなってしまったのです。そのことを知ったとき、わたしは胸がぎゅーっと苦しくなりました。こんなことが日本であつたなんて、信じられませんでした。

大切な人を失ってしまったら、どんなに悲しんでも、その人はもう

帰ってこないのです。どれだけ時間がたつても、悲しみは消えないと思います。生き残った人たちも、体や心に深い傷を負いながら、必死に生きてきたことを思うと、わたしは本当に涙が出そうになります。

今の平和な日本は、そんな人たちの苦しみの上にあるのだと知りました。だから、わたしは、「もう二度と戦争をくり返してはいけない」そう強く思いました。しかし、今でも世界ではまだ、戦争が続いています。戦争のせいで、学校に行けない子どもたちや、兵士にされてしまった子どもたちもいます。本当は、楽しく

遊んだり、友達と笑ったりするはずなのに。

SDGsには「平和と公正をすべての人に」という目標があります。この目標は、「飢餓をゼロに」や「すべての人に健康と福祉を」などという目標ともつながっています。戦争があると、食べ物も足りなくなり、病气やけがをしても治療ができません。戦争は、命だけでなく、人々の生活をもこわしてしまいます。

わたしは、平和を守るためには、ただ「平和であってほしい」と願うだけではいけないと学びました。わたしたち一人一人が、積極的に行動

主	青	稲
張	少	敷
大	年	市
会	の	

Inashikishi
seisyonen
no
syucyo
taikai

作文集

しなければ、平和は実現しないと思います。わたしにもできることがあるはずです。例えば、戦争のことや世界の現状を知り、周りの人たちに伝えることです。もし、そのことを知らなかった人が「こんなことが起きているんだ」と思ってくれたら、それだけでも希望になると思います。

また、日常生活の中でも、平和を守る方法はたくさんあります。例えば、けんかをしたとき、すぐに怒ったり感情をぶついたりするのではなく、相手と話し合って気持ちを伝えることが大切だと思います。わたしは、力で問題を解決するのではなく、言葉で向き合うことこそ、平和の第一歩だと考えます。

わたしたちの毎日のおだやかな生

活は、当たり前ではありません。今も世界のどこかで、こわくてさみしくて、泣いている子どもたちがいるのです。そのことを忘れずに、わたしは平和のために行動していきたいです。

そして、いつかみんなが安心して笑える世界をつくりたい。命をつばうのではなく、命を大切にできる世界にしたい。それがわたしの心からの願いです。戦争がなく、だれもが幸せだと思える世界を目指して、これからも行動し続けます。

3 知らない人なんていないよ

桜川小学校 六年 真下^{ましも} 千佳^{ちか}

みなさんは、自分にとって友達はどんな存在だと考えますか。私の友達に質問したところ、一人の友達は「何でも話せる」、別の友達は「自分の中の大事な一つ」、また別の友達は「高め合う存在」だと答えてくれました。

私にとって友達は、「いつでも相談し合える関係」だと思います。そう考えるのは、私が五年生のときに、友達に相談をして悩みを聞いてもらい、心が軽くなった経験があるからです。その当時、私は病気で学校を何日も休んでいました。病気のことを相談したら嫌われるのではないか

という不安でいっぱい、友達に相談したくてもできませんでした。しかし、そんな気持ちの中で久しぶりに登校したとき、友達が「さみしかったよ。」とハグしてくれて、とてもおどろきました。と同時に、友達を信じられなかった自分がはしくなりました。そのことがきっかけで、困ったり悩んだりしたときは、迷わずに友達に相談してみようという気持ちになりました。今まで、友達に対してみんな平等に接しているつもりでしたが、何人かの友達には、「この人になら相談したい、相談しよう。」と思うようになりました。実

際に相談してみると、今まで心の中でズーンと重かったものが、一気にふわっと軽くなった気がしました。あのときのことを思い出すと、私を受け入れてくれた友達への感謝の気持ちと、勇気を出して相談することができた自分に拍手を送りたい気持ちでいっぱいです。

しかし、この世界には、相談できずに自殺してしまう人がたくさんいます。令和六年の自殺者数二万三百二十人中、三千二百六十五人が二十九歳以下の若者です。さらに、小学生・中学生・高校生別の自殺者数の年次推移を見ると、どの時

主	青	稲
張	少	敷
大	年	市
会	の	

Inashikishi
seisyonen
no
syucyo
taikai

作文集

代でも小学生から中学生、高校生と成長するにつれて自殺者数は増えていつてることが分かります。私はこの結果から、成長するにつれて相談相手が親から友達に変わっていくことで、深刻な悩みや不安などを抱えていても、友達には相談できないケースが増えているのではないかと考えました。そして、友達に相談できない最大の理由は、友達が弱い自分を見て嫌いにならないかなという不安な気持ちが大きいのではないかと思います。

では、相談される側は、本当に相談する人を嫌いになってしまうのでしょうか。私が五年生のとき、いつも笑顔の友達がイライラしていたことがあり、心配して声をかけてみると、友達とけんかをして、友人関係

で悩んでいると打ち明けてくれました。話した後、「私なんていらなのかな」とボソツとつぶやいた彼女の一言に、私は、「そんなことはないんじゃない。けんかして友達を失うのはあまりにももったいないよ。」と言いました。その時、友達に対して、嫌いとか面倒だとか、そんな感情は一切わいてきませんでした。相談される相手は、相談する人が思っているよりも親身になって考えてくれていることが多いはずです。自分のことよりも、目の前で困っていたり悩んでいたりにいる友達のために、少しでも力になってあげられる関係こそが、本当の「友達」と呼べるのではないのでしょうか。

二ニュース番組では、自殺事案が発生したときに「チャイルドライン」

などの相談窓口が紹介されることが多いですが、私は友達に相談できる環境を整えることが自殺ゼロの世界により近付くと思います。相談窓口に相談することももちろん有効ですが、私たちができることは、友達との信頼関係を築き上げ深めていくこと、友達がいつもと違う表情や言葉、態度のときに気付いてあげること、そして声をかけて味方になってあげることだと思います。まずは自分がそのことを実行し、いつか自殺ゼロの世界を実現したいです。

4 言葉づかいの世界

あずま西小学校 五年 坂本^{さかもと} 陽茉莉^{ひまわり}

突然ですが、皆さんは「言葉づかい」について、じっくり考えたことがありますか？私は最近、言葉づかいがもつ力に気づき、その奥深さに驚いています。きっかけはほんのささいな、でも、私にとってはとても大切な出来事でした。

先日、休み時間に友達とサッカーをして遊んでいました。私はサッカーが得意な方ではありませんが、みんなとワイワイ楽しく遊んでいました。そのとき、私がボールをけり損ねてしまい、ボールは思いもよらない方向に飛んでいってしまいました。思わず「あー、ごめん！」と叫

びました。ミスをしてしまったことと、みんなの楽しい空気を壊してしまったことに、私は心の中で「どうしよう」とあせっていました。すると、友達の一人がかけ寄ってきて、言いました。「大丈夫！ナイスチャレンジ！切り替えて、もう一回やろう！」と、笑顔で私の肩をポンとたたいてくれたのです。

その言葉を聞いたしゅん間、私の心の中の不安な気持ちはすーっと消えていきました。私は、自分のミスを責めるのではなく、次に向けて前向きな気持ちになることができました。たった一言の言葉だったのに、

その言葉には、私を安心させ、勇気づけてくれる不思議な力が宿っているように感じました。もし、あのとき友達が「何やってるんだよ。」とか、「ちゃんと見てよ。」と怒っていたら、私はきつと悲しくなり、その後のプレーもできなくなっていたと思います。でも、友達が選んでくれた言葉は、私を温かい気持ちにしてくれました。

この経験を通して、私は言葉がもつ不思議な力に気づきました。優しい言葉は、相手を安心させ、自分自身の心も温かくしてくれます。反対に、乱暴な言葉は、相手を傷つけ、

主	青	稲
張	少	敷
大	年	市
会	の	

Inashikishi
seisyonen
no
syucyo
taikai

作文集

けんかの原因になってしまいました。言葉は、人と人をつなぐ大切なツールであると同時に、使い方をまちがえると、人間関係をこわしてしまうこともあるのです。

私は、言葉づかいは周りの人だけでなく、自分の心にも大きな影響を与えるものだと考えています。私たちがふだん使っている言葉は、いつの間にか私たちの性格を作り、私たちの「世界」を形づくっているのではないのでしょうか。温かい言葉を使えば、自分の心も温かくなり、周りの世界も優しく見えてきます。逆に、冷たい言葉を使えば、自分の心も冷たくなり、周りの世界がいやなものに感じてしまうかもしれません。

今、世の中では、心ない言葉が飛びかい、人とのコミュニケーション

います。

が難しくなっているように感じます。インターネットやSNSでは、顔の見えない相手に簡単に冷たい言葉を投げかけてしまうことも少なくありません。しかし、その言葉一つ一つが、誰かを傷つけているかもしれないということを忘れてはいけないと思います。

だからこそ、私は、相手の気持ちを考えて、優しい言葉を選びたいです。私一人の力は小さいかもしれませんが、少しずつ広がっていくと信じています。そして、この思いを、家族だけでなく、学校の友達や、これから出会う全ての人に伝えていきたいです。言葉づかいに気をつけることで、皆さんの周りの世界が、もっと温かく、優しくなることを心から願って

5 自分らしさを探し求めて

江戸崎中学校 二年 椎名^{しいな} 桃子^{ももこ}

「あなたの個性は何ですか？」と聞かれると、胸を張って言えるものがないので、私は答えに迷っています。私の好きな漫画の一つである『僕のヒーローアカデミア』の世界なら、生まれたときから個性がはっきりしている人が多いけれど、正直なところ、まだ私の個性が何なのか分からないのです。周りの友達を見ていると、一人一人の個性がはっきりしているように思えます。

運動が得意な人、勉強が得意な人、クラスを引っ張る人、発想力が豊かな人、面白い人。まるでヒーローカ的な生徒たちみたいに一人一人違う強み

をもっているように思えます。そんな中で、「自分は何の個性もないのでは？」と考えてしまいます。しかし、自分には個性がないと感じているのは私だけではないと思います。だから私は、個性がないと感じてしまう理由を考えてみることにしました。

まず、自分と他者を比べてしまうことです。上には上がいる。このように思ってしまう人が多いと思います。私は美術部に所属しています。絵を描くことが好きです。しかし、他者から「あなたは絵が得意ですか？」と聞かれたら、正直自信があ

りません。他者と比べるからです。しかし、他者と比べることで、「あの人以上になろう！」というモチベーションにつながることもあります。メリット・デメリットが両方あるように感じます。

また、個性を発揮してよいのか悩む人も多いでしょう。人間は集団で生活しています。集団の中で同調圧力を感じて悩む人も多く、私も人前に立つことが苦手です。なぜなら、発表した際に笑われて嫌な思いをした経験があるからです。声が震えたり、人前で間違えたりしたことが原因です。思い返せば、同調圧力で悩

んだことも多々あります。

個性がない。自信がない。でも、そんな私を変えたい！この思いで今この場に立つことを決めました。自信がある大人になりたい！以前からこう思っていました。しかし、自分の個性を見つけれない、自信がもてない、変われない、そんな自分がいました。悩んでいる中で、ヒロアカのあるキャラクターを思い出しました。そのキャラクターは、すぐに自分の個性を使いこなすことができませんでした。それでも、努力や経験を積むうちに自分の個性を見つけ、伸ばしていく姿が描かれていて、「もしかしたら私もまだ個性を見つけられていないだけかもしれない」と考えられるようになりました。つまり、今は個性がないように感じる

けれど、これからの経験の中で少しずつ自分らしさが形になっていくのだと思いました。

私にも、好きなことや夢中になれることはいくつかあります。絵を描いたり、ギターの練習をしたり、星を見て宇宙の不思議さを想像したり。こうした小さなことも、もしかしたら個性の芽生えなのかもしれません。ヒーローが最初は個性を上手く使えなくても、やがて自分の武器に変えていったように、私も自分の中の小さな個性を大切に育てていきたいと思います。

まだ個性が見つかっていないことに不安もありますが、自分の中に眠っている個性を見つけられるチャンスでもあると考え、正直ワクワクします。私はこれからの高校生

活や、たくさんの人たちとの出会いの中で、少しずつ自分らしさに目を向け、個性を見つけていきたいです。そして、それを自分の「ヒーローらしさ」として生かせるようになります。

6 言葉の力

新利根中学校 二年 宮本^{みやもと} 快^{かい}

僕はスマホを持っていません。友達の中には、小学生の時から持っている人もいるのに、僕は中学二年になっても持たせてもらえません。何度頼んでも、両親の答えがNOだからです。思えば姉たちも、スマホを持ったのは、高校生になってからでした。

一年生の時、理由を聞いてみると母は、

「言葉を上手に使えない子どもが、文章だけでやりとりをしたら、必ずトラブルが起きて友達をなくすようなことになるから。」

と言っのです。僕はどうして決めつ

けるのかとムツとした気持ちになりました。（小学生じゃあるまいし、言葉を上手に使えないってバカにしている）とも思いました。例えば、違う中学へ進学した友達とは、毎日会えないけれど、SNSなら連絡を取りたい時に、話ができます。嬉しいニュースを聞けたり、趣味の合う人たちの交友関係が広がったり、メリットがたくさんあるように感じます。

でも、僕がスマホを持たせてもらえない不満を持ったまま過ぎた間に、SNSの誹謗中傷による自殺や事件という言葉を目にする機会があ

りました。動画投稿サイトや書き込みサイトでも誹謗中傷の言葉が多くなあって、事件に発展している場合もありました。さらに個人情報流出などのデメリットも多く存在していることがわかりました。

そこで僕は「批判」と「誹謗中傷」の違いを辞書で調べてみました。「批判」は人の言動などの誤りを指摘し、正すべきであるとして論じることです。一方、「誹謗中傷」は根拠のない悪口を言いふらして、他人の名誉を損なう行いのことです。つまり、根拠に基づかずに「良くない」「つまらない」などの言葉を浴びせたり、

主	青	稲
張	少	敷
大	年	市
会	の	

Inashikishi
seisyonen
no
syucyo
taikai

作文集

人格を否定したりすることは「批判」ではなく「誹謗中傷」にあたることになります。

スポーツの世界大会が行われた後には、競技の結果が良くても悪くても、誹謗中傷のコメントが書かれていることが多いそうです。以前には、誹謗中傷により、自ら命を絶ってしまった芸能人もいました。でもそれは、遠い世界の話ではなく、僕たちの日常の中でも起こり得ることであります。会話アプリで近くに居なくても、コミュニケーションがとれるのは便利なことですが、表情がわからないため、誤解が生まれてしまいがちです。その誤解がどんどん大きくなって、いじめに繋がることもあると思います。僕たちが普段使っている言葉は、人の命をも奪っている

まっほどの力をもっているのだと思うと、とても怖いです。

「お母さんは、スマホがない時代に、中学生で良かった。」と母は言います。いじめなどは昔からあったけれどスマホの普及で、人間関係がより複雑化しているからだそうです。なぜ、母が文章だけのやりとりは、友達をなくしかねないと心配するのか、僕はだんだんわかってきました。言葉は、誰かを支える力にもなるし、誰かを殺してしまうナイフにもなります。言葉は扱い方が難しい「道具」なのではないかと思えます。言葉は扱い方によって人を傷つけたり、勇気づけたり、希望を与えたりと、いろいろな力をもつ「道具」に変化します。同じ言葉でも発する人によって、他人に与える影響

は違います。また、それを受け取る側によっても、その言葉をどう捉えるかは違います。言葉は、ただ存在するだけのものではありません。人が、自分の中で、最もコントロールしにくい感情の影響をとても多く受けてしまうからです。

僕がこの先、スマホを持つようになったらナイフのような言葉で、人を傷つけることのないように心がけたいです。言葉を上手に選んで会話をしたり、誰かを励ましたり、勇気づける言葉をかけたり、自分の感情をコントロールしながら使っていきたいと思っています。

7 私たちと世界の平和

桜川中学校 二年 水飼^{みずかい} 未笑^{みらい}

今も世界では、戦争や紛争が続いている国があります。皆さんはそのことを知っているでしょうか。日本

は八十年前に二度と戦争をしないと誓い、戦争のない日々を私たちは送

ることができています。しかし、他

国では戦争や紛争が続いているという現実があります。私は、ニユース

やドキュメンタリーで、アフリカの

内戦や貧困の様子を見たとき、大きな衝撃を受けました。自分と同じく

らしい年齢の子どもたちが、ご飯を食べられず、学校にも行けず、大人から暴力を受けている現実があることは、日本に住む私にとって信じら

れないことでした。日本では、毎日学校に通い、友達と話し、家族と過ごすことが当たり前になっていま

す。しかし、世界にはその「当たり前」が存在しない国がありました。

戦争や紛争が起こる原因には、民族や宗教の違い、資源の奪い合い、

政治への不満、領土問題などがあります。人々の考え方や信じるものが

違うことは自然なことですが、それが争いにつながってしまうのはとて

も悲しいことです。国境がはっきりしないことで領土をめぐる争いが起

きたり、資源を求めて他国を攻撃したりすることもあります。こうした

原因が積み重なり、戦争が始まってしまふのです。

私は、小学六年生の時に予科練平和記念館を訪れたことで、戦争の悲惨さをより深く知ることができまし

た。館内には、戦争中の風景や人々の暮らしが再現されていて、厳しい

訓練を受けていた様子が伝わってきました。展示されていた手紙や日記

には、出征した人々の切実な思いが込められていて、読むだけで胸が苦

しくなりました。空襲の映像では、

警報の音が耳に突き刺さるようで、爆弾の音は衝撃的でした。零戦の展示は実物と同じ大きさだと聞き、そ

の迫力に圧倒されました。戦争を経験していない私でも、平和の大切さを強く感じる事ができた貴重な体験でした。

では、今の私たちが他国の戦争や紛争を終わらせるために、何ができるのでしょうか。

まずは、世界で起きている問題に関心をもち、他人事にしないことが大切だと考えます。国際的な紛争や差別の問題について知ること、その地に生きる人々の苦しみを想像したり、文化的な違いを受け入れることの難しさを理解したりして、自分の考え方や世界の見方も広がります。

そして、十八歳になったら選挙に参加し、自分の意見を伝えることも一つの方法です。日本ばかりではな

く、他国の困難にも目を向けられるようにすることも大切です。募金などを通じて支援することもできます。少額でも参加することで、安心して過ごすことが困難な国の助けになるかもしれません。

また、身近な人に思いやりをもって接することも、平和につながる第一歩です。相手の気持ちを考えたり、いじめを減らしたりすることができれば、うれしい気持ちになる人が増え、その人がまた他の人に優しくなれるかもしれません。そうした優しさの連鎖が広がれば社会全体が穏やかになり、平和な環境が生まれると思います。今の私には直接アフリカの貧困をなくすことはできないかもしれませんが、近くの人を大切にすることで、その思いが世界に届く

もしれないと信じています。

今の日本が平和であるのは、過去に多くの犠牲があったからです。戦争を経験した人々の苦しみや努力の上に、今の平和な社会が築かれています。その平和を守るためには、自分たちさえ良ければいい、という考えではなく、世界が平和であることも大切な条件であると思います。そのため、私たち一人ひとりが行動することが必要です。世界の困難に目を向け、できることから始めることで、少しずつでも平和に近づけるはずです。私は、そんな未来を信じて、当たり前前に過ごせる日々に感謝し、身近な人たちを大切にしながら、今できることを続けていきたいと思っています。

8 違いを強みにできる社会へ

東中学校 二年 服部^{はっとり} 美伶^{みれい}

「制服は誰にとっても平等なもの。」私は、ずっとそう思っていました。でも、あるアニメを見てから、そうではないと気付きました。

私は、一人の男子高校生がスカートををはいて学校に通っているアニメを見ました。最初は「男の子がスカート？」と思い、とても驚きました。でも、見ていくうちに、心の性と身体性が一致しない「性別違和」という悩みを抱えていることが分かりました。周りからは、冷たい目で見られ、距離を置かれても気にせず、自分らしさを大切にして、スカートををはき続けていました。その時に、

辛いことがたくさんあるはずなのに、自分の気持ちに向き合って、毎日頑張っている姿にすごく感動しました。そして、私の身近にも、性別に悩んで学校生活を送っている人がいるかも知れないと思いました。

私も毎日、制服を着て学校に通っています。制服は、すべての生徒が同じ服を着ることで学校の一員であることを表しているため、平等さを感じやすくなると学びました。だから、「男子はズボン、女子はスカート」という決まりは疑問に思わなかったし、普通のことだと思っていました。でも、誰かにとって普通なことでは

ないと気付いたのは、そのアニメを見たことがきっかけです。

「性別違和」という言葉を知ってから、自分らしく生きることとは、とても勇気のいることだと思いました。また、当たり前形の形は人それぞれだと気付きました。その時に、性別で決まっている制服は、自分らしさを否定されてしまうように思いました。

制服だけではありません。例えば、トイレもそうです。男子用、女子用と別れているのがほとんどです。でも、心の性と身体性が合っていないと、入りづらいかもしれません。

体育の授業も性別で分けられると、モヤモヤする人がいるのかなと思います。

私が特に気になっていることは、「男女のからかい」です。「男なのに背低いね」とか「女なのに俺って言うてるの？」など、からかわれている場面を何度か見たことがあります。冗談のつもりでからかっているかもしれないけれど、言われた本人はとても傷ついていると思います。

私の友達にも、髪型や話し方が個性的な子がいます。そのことで周りから、からかわれていたけれど、本人は笑っていました。あのアニメを見てから、本当は傷ついていたのかなと思いました。もっと早く気付いてあげればよかったなと後悔しました。

最近、制服を自由に選べる学校が増えてきていると聞きました。スカートでもズボンでも、自分に合った制服を選べると、安心して学校に通えるようになります。トイレも、男女どちらでも使える共用の場所が、少しずつ増えてきているそうです。

私は、自分らしさを大切にすること、個性を守ることに関がっていると思います。だから、すべての人に「自分らしさって何だろう」と、自分の性格や価値観を考えてほしいです。そして、自分自身の気持ちに正直になって、「これが自分らしい」と思える選択をしてもらいたいなと思っています。

私はまだ中学生です。だから、できることは少ないかもしれませんが。

でも、性別に悩んでいる人だけでなく、困っている人がいたら勇気を出して、声を掛けられるようにになりたいです。このような小さなことからでも、誰かのためになっていると信じています。

一人一人の個性がそれぞれの強みになるように、違いを笑ったり、否定したりするのではなく、認め合える社会を作っていきたいです。誰もが平等に尊重される社会を作っていく一人に、私もなれたらいいなと思っています。

9 大切にすべきこと

江戸崎総合高等学校 二年 坂上^{さかうえ} 瞳羽^{とわ}

私は、人より行動が遅く発言もうまくできないし体調を崩しやすく、周りの人に気を使わせてしまうことがたくさんあったし、内気な性格のせいで友達があまりできなくて悩むことがたくさんありました。また、

誰に相談したらいいのかわからないし、相談相手がいいたところで何をどう話せばいいかわからなくて一人で抱え込むことがたくさんありました。

中学と高校では環境が大きく変わり、慣れるまでに時間がたくさんかかってしまい、友達が今でもそこまですくはいません。ですが、中学と

高校で私のことを理解してくれる友達に出会うことができました。相談に乗ってくれたら自分も相談に乗る、話を聞くだけでもいいからしてあげるなどして関係を保っています。

私は兄弟が下に二人いることでより責任感が強くなりました。話を聞くことが自分が中学生になったらくさん増えて、高校生になっても増えていき、正直どうしたらいいかわからなくなることだけで、頭がパンクしてしまい感情をうまくコントロールできなくなってしまうことが今でもたまにあります。その時には、

自分の好きなことをしたり、話を少し聞いてもらったり、自分で感情をコントロールできるように頑張っています。

私は、いじめられたこともありません。言われたことは覚えていて、しやられたことも覚えています。やった本人は、特に悪いことをしてしまつたと思わずに、生活している人がほとんどです。私はそんな人が許せないです。いじめられた側はずっと心に残るのに、やってしまった側は反省したと思わせておけばなんにもないと思っています。可能性が高いのに、イライラします。やってしまつ

た罪の重さをしっかりと理解し、すべき行動や発言をして、問題をしっかりと解決することをしていかないと、いじめは無くならないと思います。いじめられている人がいたら、すぐに報告をして、いじめられている人のことを守っていくことで、被害がそこまで大きくなることを防げると思います。

自分がいじめられることを恐れて助けられないのではなく、いいことをしたなと思えるような行動をとれるような人が、少しでも増えたらいいなと思います。善い行いをしたら自分にも返ってくるかもしれないという思いで、人助けができる人が増えることがあればいいなと思っています。逆に、自分がいじめられたら、誰かに助けを求めることをすること

で、どうにかしてもらえるかもしれないという可能性を信じて行動することも大切だと思います。

自分のことを理解してくれる人に対しての感謝や、自分の相手を理解する努力、いじめられている人を助けること、助けを求めることの大切さを私は今までで経験してきました。経験したことを頭で考えるのは簡単だが、行動にすぐ移すのは難しいです。ですが、人助けをするということは、自分の気持ちも良くなるし、周りからの見え方もいい方向に思います。いじめられてる人に関わらずに困っている人を助けること、自分じゃ何もできなくても声を掛ける勇気も大切です。自分も周りも考えながら生活することが大切です。

10 命の偉大さ

私が遊んでいる時、一本の電話がかかってきました。

「お父さんが倒れた。救急車で運ぶから、すぐに来て。」

その言葉を聞いた瞬間、全身から血の気が引き、頭が真っ白になりました。もし間に合わなかったらどうしよう。そんな不安に押しつぶされそうになりながら、必死に病院へ向かいました。

病院で見たお父さんは、もう意識がなく、たくさんの機械につながれていました。何がどうなっているのか分からず、ただ涙がこぼれてきました。その日は朝早くから遊びに出

かけてしまい、顔を合わせることも、声をかけることもできていませんでした。そんな私が今日初めて会えたお父さんは、もう眠ったまま、返事をしてくれませんでした。

「今日と明日は覚悟してください」とお医者さんに言われました。どうやって覚悟をすればいいのかわかりません。ただ、もしこの二日間を乗り越えられれば助かる可能性がある」と聞き、信じたい気持ちと諦めたくない気持ちで胸がいっぱいになりました。

奇跡のように、お父さんはその二日間を生き抜いてくれました。お医

江戸崎総合高等学校 二年 嶋野^{しまの} くらら

者さんが「救命の兆しが見えてきました」と言った時、うれしさと涙があふれました。「お父さんはやっぱり強いんだ」と心から思いました。けれど、その安堵もつかの間、翌日には再び危篤状態となり、冷たくなった手を握りしめながら、私は「こんなお父さんを見たくなかった」と胸が張り裂けそうになりました。

そんな中で臓器移植の話が出ました。最初は「お医者さんは臓器しか見ていないのか」と悔しい気持ちになりました。しかし考えるうちに、臓器移植をすればお父さんがどこかで生き続けることになる、そして誰

かの命を救うことができると気づきました。家族で涙を流しながら何度も話し合い、臓器を提供することを決断しました。

さらに、脳死で移植を行うか、心停止を待つかという選択を迫られました。脳死で行えばお父さんの体への負担は少ないけれど、会える時間は短くなります。心停止を待てば一緒にいられる時間は増えるけれど、体への負担は大きくなります。私たちは悩みに悩み、最後までお父さんと過ごせる時間を選びました。

そのおかげで、お父さんは私たちに「お別れの時間」を残してくれました。冷たい手を握りしめながら、「今までありがとう」「大好きだよ」と何度も伝えることができました。お父さんの心臓が止まるその瞬間ま

で、私はずっとそばにいられました。涙が止まらなかつたけれど、最後まで伝えたいことを伝えられたことは、今も心の支えになっています。

お父さんの臓器は二人の方に移植され、その方たちは「生きられる喜び」を心から語ってくださいました。そうです。「お父さんがまだ誰かの中で生きている」と思うと、悲しみの中にも温かい光が差し込むように感じました。お父さんは亡くなってしまうけれど、その命は人の中で生き続け、未来を守っているのです。

私は今回の経験を通して、「命の偉大さ」を深く感じました。命は一度失えば二度と戻ってきません。でも、臓器移植によって命はつながり、希望を与えることができます。日本には臓器移植を待っている人がたく

さんいます。私はこれから、命と向き合うこと、臓器移植について考えることを決して後回しにしないことに誓いました。

お父さんが最後に教えてくれたのは、命の重さと、命がつながっていくということです。その偉大さを胸に、私はこれからの人生を大切に生きていきたいと思います。

今年も、日常生活の出来事から自己を見つめて向き合い、実行しようとする発表と、世界や社会の問題に目を向け、課題解決のために自分にできることを考えて実践しようとする発表に分かれました。性的少数者への差別と個性の尊重、戦争と平和、人との関わり、言葉の力と重み、いじめ、臓器移植と命の偉大さについてと多様なテーマで、いずれも発表者の思いと決意が十分に伝わる内容です。

沿里小学校五年・松田結太さんは、性的少数者の問題から差別について考えました。他との違いを個性と考えると、その人の良さに気付き、好きになった経験から、差別をなくすために、一人一人が差別をしない意識をもち、周りの人たちと話し合い、差別されている人が苦しみを抱え込まないよう呼びかけ

たいと考えています。結太さんには自分と違う人の良さをそのままに感じ取れる素直な心があります。その心は周囲にも広がり、必ず差別がなくなっていくと思います。

高田小学校六年・飯沼ひよりさんは、原爆で命を奪われた人々の犠牲や生き残った人たちの苦しみの上に今の平和があることを知り、戦争のない世界にしたいと強く思いました。そのためには、戦争について学び周りに伝えるとともに、けんかをしたときに感情をぶつけずに話し合って気持ちを伝えるなど、力ではなく言葉で向き合っけて平和を守ろうと思いました。戦争の悲惨さを受け止めて真剣に平和に向き合おうとする、ひよりさんの心の在り方こそが平和への第一歩です。

桜川小学校六年・真下千佳さ

んは、病気で何日も学校を休んで不安な気持ちで登校したときに級友からハグされて安心し、自分から友達に相談できるようになると、友人からも悩みを打ち明けられるようになりました。その経験から、友達とは互いに相談し合える関係だという思いに至りました。友達の様子やそぶりの変化に目を向け声をかけて味方になってあげたいという千佳さんの優しい気持ちは、友達や周りの人々の心を温かくし、力を与えていくと思います。

あずま西小学校五年・坂本陽茉莉さんは、サッカーでミスしたときに友達からの温かい言葉かけで勇気を貰った経験から、言葉には人を安心させ勇気づける力があることに気付きました。言葉遣いから自己の性格を作り、自分たちの世界を形成していくという陽茉莉さんの考え

にとっても共感できます。言葉を考えることは、相手を思い、自分と向き合うことです。それにより社会性が育つのです。陽茉莉さんの言葉の力で周りを勇気づけ、温かい世界をつくっていくてください。

江戸崎中学校二年・椎名桃子さんは、他者と比べてしまい自信がもてず、自分の個性を見出せませんでした。好きな漫画の登場人物が努力や経験を積むうちに自分の個性を見つけて伸ばしていく姿を見て、自分はまだ個性を見つけれないだけで、これからの経験が自分の個性を形成していくことに気付きました。自らを省みて自分の個性をつくっていくという姿勢そのものが、桃子さんの素晴らしい個性です。自分の良さに自信をもち、前に進んでいくください。

新利根中学校二年・宮本快さんは、SNSの誹謗中傷から言葉について考えるようになりました。SNSによるいじめで命をも奪うこともあり、言葉の怖さを実感しました。言葉は人を支える力にも、誰かを殺してしまふナイフにもなる難しい道具であり、道具を上手に使うには感情のコントロールが大切と考えました。この力は、我々が生きる上での土台となる力です。言葉の他人に与える影響に思いを巡らし、人を励まし勇気づけたいという快さんの決意を心から応援します。

桜川中学校二年・水飼未笑さんは、戦争で飢えや暴力に苦しむ海外の子どもたちを見て心を痛めました。かつて予科練平和記念館を見学して戦争の悲惨さや平和の大切さを実感したからです。未笑さんは、世界の問題

に関心もつ、十八歳になったら選挙に投票する、身近な人に思いやりをもって接するなどを実践し平和な世界にするために貢献したいと考えました。身近な人たちを大切にし、今できることを続けようとする未笑さんの優しい心は、周りの人に必ず勇気を与えます。

東中学校二年・服部美伶さんは、男子高校生がスカートをはいて登校するアニメを観て性別違和について知り、性差別になりかねないからかいが気になるようになりしました。美伶さんは、友達がそのことからかわれていた場にいた時に、当人の心の痛みに思いが至らなかつたことを後悔し、性差別に悩む人だけでなく、困っている人にも勇気を出して声掛けられる人間になりたいと思いました。思いやりとは、その人を理解し、認める

ことであると気付かせられる発表です。

江戸崎総合高等学校二年・坂上瞳羽さんは、周りと同じようにできない自分に悩んでましたが、理解してくれる友達ができ、課題である感情のコントロールを克服しようと努力しています。いじめを受けた経験から、自分を理解してくれた人に感謝し、自分も相手を理解する努力をして人を助けようと決心しました。辛い思いをした経験から、自分を理解してくれる人に感謝し、自分と向き合って強く生きようとする瞳羽さんの誠実な姿に勇気を貰っている人が必ずいます。

江戸崎総合高等学校二年・嶋野くららさんは、父親が倒れた時に臓器移植を提案されて家族で何度も話し合いましたが、誰かの命を救うことで父親が生き

続けると思い、同意しました。移植方法の違いでも決断を迫られました。最後まで一緒に過ごせる方法を選び、心臓が止まる瞬間まで感謝の言葉を伝え続けました。くららさんは父親から命の偉大さを学び、人生を大切に生きる勇気を得ました。くららさんには、お父さんから貰った力があります。自信をもって生きてください。

最後になりますが、自分と向き合つて真剣に考え、一生懸命に発表された発表者の皆さん、お忙しい中で丁寧にご指導いただいた先生方、子どもたちのために多くのご支援をいただいた関係者、子どもたちを支え、優しく背中を押してくださったご家族の皆様に感謝申し上げます。評とさせていただきます。

《青少年育成稲敷市民会議》

会 長	和 田 克 典
副 会 長	高 野 貴 世 志
副 会 長	篠 田 啓 子
副 会 長	糸 賀 妙 子
大会部長	臼 田 京 子
	伊 藤 均
	小 貫 勉
	板 橋 好 美
	寺 崎 久 美 子
	根 本 浩
	宇 佐 美 充 子
	坂 本 千 枝 子
	助 川 幸 子
	野 澤 貞 子
	飯 塚 卓 也

〈主 催〉 青少年育成稲敷市民会議
〈協 力〉 稲敷市・稲敷市教育委員会・稲敷市校長会

青 気 目 声
少 に を か
年 け け け
う

